

2020年11月29日主日礼拝

『待ち望む人々』

マラキ3:1~4

聖書本文

- 1 「見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、来ている」と万軍の主は仰せられる。
- 2 だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。まことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。
- 3 この方は、銀を精錬し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粹にする。彼らは、主に、義のささげ物をささげる者となり、
- 4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、ずっと前の年のように、主を喜ばせる。

導入：アドベントカレンダー

今年もキャンドルに火が灯されました。救い主イエス・キリストを待ち望む期間であるアドベントが始まったのです。私たちに与えられた祝福を噛み締めながら、救い主イエス・キリストの誕生を待ち望みましょう。

このアドベントは日本語で待降節と言います。主の降誕を待ち望む時という意味です。この待降節にはアドベントカレンダーが登場します。アドベントカレンダーは、クリスマスまでの期間に日数を数えるために使用されるカレンダーです。毎年アドベントカレンダーを利用される方も多いのではないのでしょうか？イエス・キリストの降誕を待ち望む期間に窓を毎日ひとつずつ開けていき、すべての窓を開け終わるとクリスマスを迎えたことになるのです。アドベントカレンダーは、窓を開くと写真やイラスト、詩や物語の一編、チョコレートなどのお菓子、小さな贈り物等が入っていることが多くあります。主の降誕を楽しみにしつつ、毎日小さなプレゼントを受け取ることができるのです。

アドベントカレンダーは19世紀初頭よりドイツでクリスマス前の24日間を数えるために始まったと言われています。一説にはドアに毎日チョークで印をつけたことがその起源であるとも言われています。アドベントリースの様に毎日ロウソクを灯していったり、毎日新しい宗教画を壁に掛けていくという習慣の家庭もあったそうです。

アドベントカレンダーの種類は様々なものがあり、最も古いアドベントカレンダーとして知られているのは1851年に登場したそうです。最近では、インターネット上などで、12月の1日から25日までに、特定のク

クリスマスのテーマに沿って毎日ブログなどに記事を投稿していくという企画が行なわれ、性質的にこの企画もアドベントカレンダーの一種だと言われています。

私も今年はこのアドベントカレンダーを買ってみました。実は今までアドベントカレンダー自体見る機会があまりなかったので、私がアドベントカレンダーを買うのは初めてです。少しフライングですが、さっそく1日目だけ開けてみました。すると、英語で東方の博士たちが来るというような文字が書いてあり、星を見上げる人たちの絵がありました。マタイの福音書2章の内容を指しているのでしょうか。イエス様の誕生の物語がいよいよ始まるという感じですよ。2日以降開けて行くのがもう楽しみです。

このように私たちはアドベントを迎えるとこの世に来られたイエス様のことを思い、いつも心が温くなるような気がします。なぜでしょうか。なぜ私たちは主イエスの降誕を思うと心が温くなるのでしょうか。なぜ4週にも渡ってイエス様の誕生を待ち望むのでしょうか。今朝はマラキのみことばからその理由を瞑想しましょう。

本文 1:待ち望む

マラキ3:1~2前半のみことばをお読みいたします。

1 「見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、来ている」と万軍の主は仰せられる。

2 だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。

マラキ書は旧約聖書最後の預言書であり、キリストがこの世に来られるということを、主の民に語っています。今日のみことばである3:1~4はそのキリストについて明らかにしています。1節に使者とありますが、これは荒野のバプテスマのヨハネのことを預言しているのです。当時は、王様が訪れる予定の場所にはあらかじめ使者がその場所に使わされました。王の訪れを知らせ、準備させるためです。神様はイエス様が送られる前にヨハネを通して主の道を備えられました。なぜヨハネがこのようことをする必要があったのでしょうか。**マラキ2:17**のみことばから確認しましょう。

17 あなたがたは、あなたがたのことばで主を煩わした。しかし、あなたがたは言う。「どのようにして、私たちは煩わしたのか。」「悪を行う者もみな主の心にならなっている。主は彼らを喜ばれる。さばきの神はどこにいるのか」とあなたがたは言っているのだ。

イスラエルの民は神様の前に罪を犯し続けていたからです。「煩わした」とは、苦痛を持つ、苦しむという意味を持っています。自分たちの行いを顧みず、神様が悪者を喜ばれると、さばきの神様なんていないんだと、

神様を冒瀆しているのです。そんな神様の民だからこそ、洗礼者ヨハネは神様の前に彼らの心を整える必要がありました。**マタイ3:2~3**でマタイはヨハネの言葉とヨハネについてこのように紹介しています。

2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

3 この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がある。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ』』とされたその人である。

ヨハネは人々に訴えました。「道のごみや小石をきれいにするように、自分のところをきれいにしなさい」と。『汚い身なりを整えるように、神様に真っ直ぐ向き合いなさい』と。

神様はイエス様到来の数百年前に預言者マラキを通してこのことを神の民に訴えていたのです。「王が来ることを喜び待ち望むようにキリストが来られるのを待ち望み、準備せよ」と。なぜなら、やがて来られるキリストは、御自身の民を罪から救って下さる方だからだと。

本文 2: 神様との関係の回復

マラキ3:2後半~3前半を読みます。

2 まことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。

3 この方は、銀を精錬し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粋にする。

精錬とは不純物の多い金属から純度の高い金属を取り出す作業のことを言います。精錬によって金属はその価値を高めるのです。また、布をさらす灰汁とは当時の洗剤を意味します。布の汚れをきれいに取り除くには灰汁が必要不可欠だったのです。このように主は神様の民をきれいにされる方だといえます。その結果は何でしょうか。

私たちは、精錬という言葉や、布をさらす苦い灰汁という言葉を書く時、何か苦しい、痛いイメージを持ちますが、それらがもたらすものは、神様との関係の回復です。**マラキ3:3後半~4**

3 彼らは、主に、義のささげ物をささげる者となり、

4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、ずっと前の年のように、主を喜ばせる。

イエス・キリストによって私たちは神様と関係を回復することができるのです。人間はどうしても罪を犯し続ける存在です。罪の性質はどんどん神様から離れてしまうというものです。罪があると神様に近づくことができません。神様の望むことの反対のことを行ってしまいます。神様が喜ぶことを何一つ行なうことができません。神様との関係が完全に断絶してしまうのです。

少し、私と私の母親についてお話をいたします。私の母親は関善植といいます。ひたち光教会で牧師婦人として仕えていました。手前味噌ですが、息子の私から見てもとても優しく、誰からも好かれるそんな母でした。息子の私にはイタズラをするのが好きで、朝私を起こす時に水鉄砲を使用したりしていました。よく私に優しい性格をしていると言って下さる方がいるのですが、その優しさは母からもらったものだと思います。そんな母ですが2010年11月6日に天に召されました。

2010年の11月。当時私は韓国の神学校に通っていたのですが、私の母は、父と一緒に教会の仕事の一環で、プサンという韓国の第二の都市にいました。同じ韓国内に在るということ母は時間を見つけては私に電話をしてきて、会いたいと言っていました。しかし、勉強の忙しさに追われていた私は、忙しんだよと言っては断っていました。そんな中で、少し余裕が出来たので両親に会いにプサンに行くことが出来ました。お昼と一緒に食べて、少し買い物をして、私はすぐに神学校に戻るためにバスターミナルに向かいました。バスに乗る直前、私に電話がかかって来て、母が倒れたということを聞きました。そして、そのまま天に召されたのです。原因はわかりません。本当に突然でした。

私は母との最期の会話を覚えています。“だから、忙しいんだって!!”その時の私の頭の中は、ヘブル語やギリシャ語でいっぱいになっていました。だから、私が帰る時にもう少し一緒にいられないのかと母親に言われた時に、ついイライラして言ってしまったのです。“だから、忙しんだって!!”この言葉は何年も過ぎた今でも、私の後悔の種になっています。バスターミナルに向かう途中で、私は学校に帰ってから、母親に謝すつもりでいました。後で謝ればいい。また、時間を作ろう。そんなことを思っていました。しかし、私が母親に謝る機会はありません。今でも悔やみます。何であんなことを言ったのだろう。もう少し優しく言ってもよかったのではないか。何で最後にあんなに悲しそうな顔をさせてしまったのだろう。

自分のことを責めれば責めるほど、私は神様との関係も遠くに感じるようになりました。神様にも祈れなくなってしまったのです。それはその後数年間も続きました。

そんな私にも神様の憐みが臨み、私と神様の関係は回復しましたが、あの時の体験は今でも忘れることができません。

イエス様は、そんな愛のない、大切な人をも愛することができない、罪ある私たちを救うためにお生まれになりました。

そんなイエス様が私たちに最も大切な祈りとして教えてくださった祈りは何でしょうか。それは先ほども一緒に祈りました「主の祈り」です。そして、その主の祈りには、私たちの負い目をおゆるし下さいとの祈りが入れられています。

イエス様がそう勧められているのはその必要があるからです。私たちは毎日罪の中を歩んでいる者です。かの有名な宗教改革者マルティン・ルターはこのような言葉を残しています。

“クリスチャンは義人であるとの同時に罪人である。”

私たちは主イエス・キリストの血の贖いによって義人とされました。それは、私たちの信仰であり、私たちが救いを受ける者となった根拠です。しかし、義人とされた、のであって、義人になったのではありません。私たちはまだ、私たちの罪の性質のゆえに、日々罪を犯しながら生きているのです。そんな中で私たちは神様の前で自分の罪を言い表す必要があります。

そして、この神様への罪の告白によって、私たちはそんな苦しみからすぐに救われることが出来るのです。いつ、いかなる時にも、です。イエス様がなして遂げてくださったことによって、私たちは罪の苦しみから救われることが出来るのです。

私たちは、マラキが宣言するように、「昔の日のように、ずっと前の年のように、主を喜ばせることができるようになった」のです。これは神様の愛を知る者にとって、大いなる喜び以外の何物でもありません。

今、皆さんの中でも最近の自分は神様から離れてしまっている、もしくは、具体的な罪を犯してしまった、もうだめだと神様を遠くに感じておられる方はいるでしょうか。もしくは、今の私は誰の訳にもたっていない、主を喜ばせることができていないのではないかと落ち込んでいる方はおられるでしょうか。それならば安心して下さい。そんなあなたのためにイエス様は来てくださったのです。だから、私たちはキリストを待ち望むのです。

本文 3: 証し

最近私はコロナウイルス第3波到来という大きな事態を前に心が落ち込んでいきました。だんだんと心が蝕まれて行く感覚でした。神様のみことばを前にしても喜ぶことができない自分の姿を自覚しながらも、どうすることも出来ませんでした。不平不満が自分の内に次から次へと溢れてくるのです。

しかし、2週間前の礼拝で、聖歌 451 番を賛美している時のことでした。詞の中の

**神なく望みなく さ迷いし我も
救われて主をほむる 身とはせられたり**

という歌詞を賛美しながら、私はハッとさせられました。

自分の中にいかに不平不満が詰まっていたのか、今の状況の中で十分に感謝できることはいくらでもあるにも関わらず、出来ないことだけを見てしまっていたのです。そして、この歌詞の中の「神様を賛美する身と変えられたのだ」という実は物凄い祝福が、当たり前すぎて、忘れていた自分の姿を見つけたのです。

そして、この聖歌の続く2節では、

かつては罪のため 心は曇りて
迷いしが今は目も 全く開きたり

とありました。こんな私だけれども、私もそうありたいと改めて強く願いました。そして、私の心は、状況は全く変わってなくても、霧が晴れていくように、神様に向かっていくことが出来たのです。

結論

アドベントを迎えている私たちの心に、今、溢れているものは何でしょうか。嘆きでしょうか。喜びでしょうか。不安でしょうか、不満でしょうか。無力感でしょうか。罪悪感でしょうか。しかし、そんな私たちにマラキははっきりと宣言します。

- 1 「見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、来ている」と万軍の主は仰せられる。
- 2 だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。まことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。
- 3 この方は、銀を精錬し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粹にする。彼らは、主に、義のささげ物をささげる者となり、
- 4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、ずっと前の年のように、主を喜ばせる。

私たちには救い主が与えられています。その方は私たちを聖くし、神様との関係を回復させて下さる方です。クリスマスの祝福を覚えて、喜びと多いなる期待を持って今年のアドベントを過ごそうではありませんか。